C12c　PAONET データベースを利用した天文学史資料の収集と公開

宮下 敦（成蹊中高），○西村昌能（洛東高），松尾 厚（山口博物館），鳫 宏道（平塚市博物館），吉住千亜紀（徳島県立あすたむらんど），尾久土正己（和歌山大）

天文学史研究に一次資料としての ”古文書 ”は欠かせない。また、理科教育の中で科学史的取り扱いをする傾向が高まってきている。ところが現在、教育関係者や天文学研究者が利用している資料は文献からの引用が多く、資料の来歴について不確実な部分が多いのが現状であるといえよう。

そこで、我々は、(1) 日本や世界の天文学の歴史に関係する画像（古文書等も含む）(2) 星を表す文様などの天文民俗学、美術などに関係する画像 (3) 地域の天文家についての資料 (4) 新天体発見時のプレート (5) 日本の天文学の研究上重要な画像

について天文台や博物館所等各所からの収集、アーカイブ化とその利用について検討している。

アーカイブされたデータは PAODB（公開天文台ネットワークデータベース、尾久土ら 2005）で公開する。従来の PAONET においても，１０年前の画像は既に天文学史の資料としての価値を持ちつつあるが、PAODB によりデータベース機能が強化され JPEG 以外の画像形式も扱えるようになった。これにより、画像アーカイブだけでなく、文書等もデジタル資料として蓄積して、教育や展示、さらに天文史研究に役に立てることができると考えている。